

大山の森だより

2013年冬号



今はまだ、雪が降ってもすぐに解けますが、もう間もなくすると、一面銀世界に。

木の実観察会

9月28日(土)



ヤマブドウ、エビヅル、サルナシ、ツノハシバミ、オニグルミなど、大山の豊かな自然を象徴するかのよう今年にはたくさんの木の実が実りました。

これで動物たちの冬の準備は万全!!

ついでに人様も…

大山歴史散歩と精進料理 10月12日(土)



悠久の長さを誇る大山の歴史

一口では語り尽くせないで、まずは、精進料理を食べながら大山の昔話を…。

大山秋の味覚散策会

10月27日(日)、11月9日(土)



歩き方にもコツがあるように、
食べ方にも流儀(?)あり。

食材を当てるのも味覚散策会の
楽しみ方??

自然公園財団では、年間を通して、様々な観察会を開催しています。
観察会の実施状況やイベント募集は、HPにも掲載しておりますのでご覧ください。

自然保護活動(大山山頂の保全活動)

古来より、信仰の山として栄えた大山。霊山としての大山は立入が厳しく制限され、修験者など、ごく一部の限られた人と、限られた時期にしか入る事は出来ませんでした。

戦後に入り登山ブームが訪れると、多くの登山者が大山山頂を目指すようになりました。年間15万人とも20万人とも言われた登山者により、頂上は踏み荒らされ、ヒゲノガリヤスやヒツバヨモギなど高山植物の草原は次第に姿を変えて行きました。やがてオオバコなどの踏み付けに強い植物に植生が変わり、昭和50年代に入ると、それらの踏み跡植物すらも無くなってしまいました。



昭和20年代(草原に覆われた頂上)



昭和50年代後半(裸地化した頂上)



大山頂上は裸地化が進み、山の保水力が失われ、雨水等による浸食溝がいたるところに出来てしまいました。この状況を何とかしようと、昭和60年に地元の自然保護団体、山岳団体、行政などが手を取り合って保護運動に取り組もうと『大山の頂上を保護する会』が結成され、『一木一石運動』が展開されるようになり、現在に至っています。

会発足当初は、空輸による資材の搬入等を行っていましたが、野鳥など生態系保全のため、空輸は取り止められ、現在は秋に行われる大山の頂上を保護する会の会員による頂上保全作業の他、一般登山者、民間企業、自衛隊、消防等にご協力頂き、人力による資材等の運搬を行っています。



人力による荷物運搬



持ち上げ用の石(登山ポスト横)



平成25年(頂上)

大山の頂上を保護する会は、環境省、鳥取県(各総合事務所)、米子市、大山町、伯耆町、江府町、琴浦町、森林管理署、教育委員会、教育施設など行政機関等を始め、大山遭難救助隊や大山ガイドクラブなど鳥取県内の山岳団体、バス会社、電力会社など民間企業その他、地元自治体、旅館組合、自然保護団体、ライオンズクラブ、休暇村、造園協会、国立公園協会等、平成25年4月1日時点で33団体が加入しています。

一木一石運動とは

年ごとに進む山頂の荒廃をみてきた地元の人や、大山に親しんできた人々は、頂上の危機を救うため、“大山頂上の復元は、大山に登る人たち、大山を愛する人たちの力の集結によって、必ず達成される”を標語(運動方針)に掲げ、「一木一石運動」として、大山の頂上保全活動を続けています。具体的には、頂上に昭和20年代の緑豊かな草原を復元するための植栽事業と山頂域の浸食溝の埋戻事業の他、運動をとおして、登山者の理解と協力(自然への接し方や自然へのいたわりなど)を呼びかけています。

•大山山頂の植生等の変化

- 昭和20年代 頂上は本来の植物相で覆われていた。避難小屋付近は多少の裸地化が認められ、踏跡群落といわれるオオバコなどの平地植物の侵入があったと言われている。
- 昭和30年代前半 小屋の前や山頂は裸地化が始まり、オオバコの群落となった。
- 昭和30年代後半 頂上付近は裸地化。
- 昭和45年 山頂部の60パーセントは裸地化。雪庇の崩落、登山者の踏圧によって、歩道の一部が崩壊。
- 昭和52年 頂上歩道が崩壊し、それを受け木道の整備計画が始まる。
- 昭和58年 小屋から上はすべて裸地化。
- 昭和60年 大山の頂上を保護する会の設立と一木一石運動の開始。
- 平成元年 大ノ沢源頭が大崩落。
- 平成6年 流水により、頂上域に新たな浸食溝が形成。



大ノ沢源頭

•大山山頂の環境変化(昭和20年代から30年代にかけての山頂の変化)



現在は、表土流失を防ぐため、丸太筋工、ムシロ敷工、木製法枠など、様々な工夫をして

自然に逆らうことなく、自然と調和するように、保全作業が行われています。

•大山頂上保全に関わる主な活動内容

- 裸地及び崩落現況調査
- 穂木の採取、苗圃、株分け作業
- 浸食溝の埋戻し作業、堰堤の作成
- 植栽作業、コモ伏せ
- 頂上及び登山道の清掃
- 登山道等に関する看板設置
- チラシ配布等の啓蒙活動



植生調査



頂上保全作業

現在、頂上の緑化は進んできてはいますが、外来種の侵入や頂上の崩落に伴う木道や山頂碑の移設等、新たな問題も出てきています。



外来種除去



山頂碑裏



参考文献

— イベント情報 —

■自然公園財団主催のイベント

下記は全てスノーシューを使って歩く観察会です。(スノーシューが必要な方は貸出¥1000もしています)
内容・コース等一部変更になる場合がありますので、事前にお問合せ下さい。(開催日の2週間前より募集開始)

冬芽観察会

日時	： 1月11日(土)、25日(土)	内容	：
場所	： 大山寺地区周辺		色々な冬芽を探して歩いてみよう。
集合	： 大山情報館1階		11日と25日、2回開催。
参加費	： 2000円(保険代・昼食代)		開催内容は同一のものとなります。
募集人数	： 15名(先着順)		

アニマルトラッキング

日時	： 2月8日(土)	内容	：
場所	： 大山寺地区周辺		動いている姿は見るのは難しくても、
集合	： 大山情報館1階		雪の上には動物たちの痕跡が
参加費	： 2000円(保険代・昼食代)		いっぱい残されています。
募集人数	： 15名(先着順)		

巨大ブナ観察会(中の原)

日時	： 2月22日(土)	内容	：
場所	： 大山寺地区周辺		春～秋にかけては背の高い笹が
集合	： 大山情報館1階		生い茂り、なかなか見に行くことが
参加費	： 2000円(保険代・昼食代)		出来ない巨大ブナを目指します。
募集人数	： 15名(先着順)		

冬の虫観察会

日時	： 3月8日(土)	内容	：
場所	： 大山寺地区周辺		ピョンピョン跳ねるトビムシに
集合	： 大山情報館1階		上流へ向かうクロカワゲラなど
参加費	： 2000円(保険代・昼食代)		冬に生きる昆虫たちを探します。
募集人数	： 15名(先着順)		

巨大ブナ観察会(鏡ヶ成)

日時	： 3月22日(土)	内容	：
場所	： 鏡ヶ成周辺		江戸時代の初期から生きる
集合	： 休暇村奥大山(予定)		推定樹齢約400年の巨木。
参加費	： 500円(保険代)		烏ヶ山のブナを見に行きましょう。
募集人数	： 15名(先着順)		

■周辺イベント

大山榊水高原スキー場開き祭

毎年12月末に行われる大山榊水スキー場開き祭。神事を執り行い、今シーズンの安全を祈願した後、スキー板などさまざまな景品が当たる宝探しが行われます。(平成25年度は12月22日開催です。)

だいせんホワイトリゾートオープニングセレモニー

今年は12月22日に開催。スキー場オープニングセレモニー。安全祈願の神事、デモンストレーション滑走、スタンプラリーなどが行われます。

自然公園財団 鳥取支部 大山事業地
〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33(大山情報館1階)
TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2371
URL:<http://www.bes.or.jp/daisen/>